長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

専齋 SENSAI

2021 DECEMBER VOL.397

発行所
独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター
〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292



活水女子大学看護学部のクリスマスツリーを見に行ってきました。
Merry Christmas! 素敵なクリスマスとよいお年がおむかえできますように！！

診療科紹介 update
Vol.21 放射線科

明日を担う Vol.16
・野口 美帆（形成外科医師）

TOPICS
・腎移植の歴史をふりかえり
～厚生労働大臣感謝状を受賞して～
・第7回日本NP学会学術集会の
運営・会長を経験して感じたこと
・第118回日本消化器病学会／
第112回日本消化器内視鏡学会合同地方会
を終えて
・日本臨床外科学会
「研修医award」を受賞しました。
・第75回国立病院総合医学会に参加して
・令和3年度　緩和ケア研修会
・2021年度 学術奨励賞　入賞者一覧

市民公開講座のお知らせ

経営企画室だより Vol.3

長與専齋展のご案内

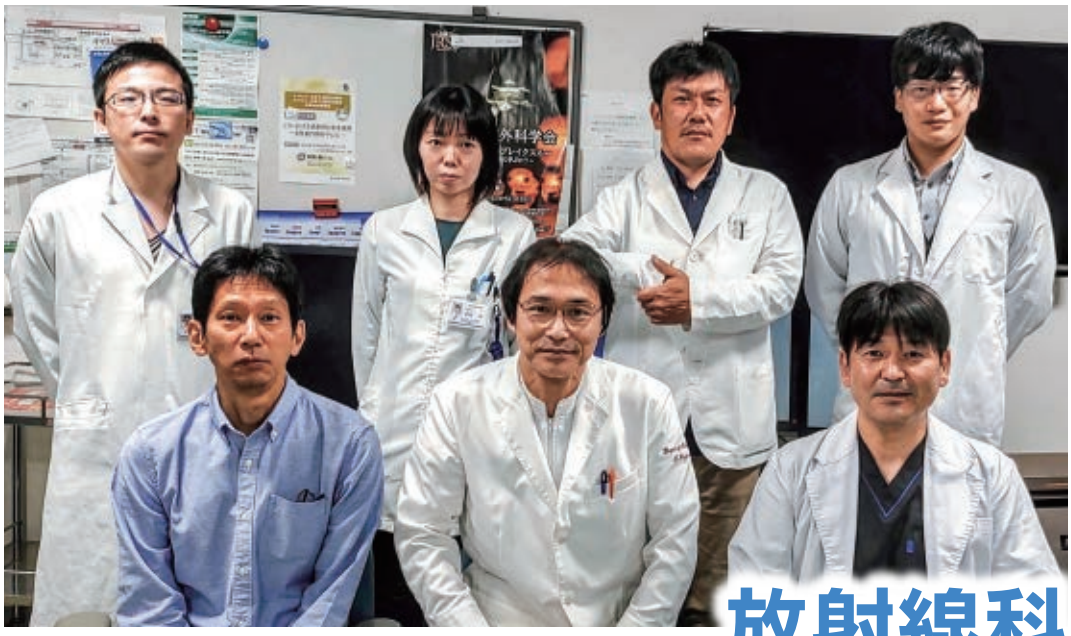
看護部だより Vol.37

SENSAIで2021年を振り返る

長與 専齋（1838年～1902年）
大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

診療科紹介 Update

Vol.21



放射線科

当院放射線科の特徴

○『放射線診断』、『IVR』、『放射線治療』の主要3部門をカバーする専門医
○多くの高度医療機器
（CT装置、MR装置、PET/CTなどの核医学検査装置、放射線治療装置など）
○県内の市中病院で医師と技師の数が最も多く、県内唯一の放射線科総合修練病院
○研修医や学生への充実した教育体制

放射線診断部門

令和3年度は途中から放射線診断専門医が1名減員となりましたが、1名が専門医資格を取得したため、計5 名の放射線診断専門医、1名の非常勤診断専門医で放射線診断の業務を行っています。診療放射線技師数25 名も含め、放射線診断業務に従事するスタッフの人数は県内の市中病院で最多です。

CT、MRI、核医学検査の総件数は県内の市中病院で最も多く、今も増加傾向にあります。放射線診断部門には**CT装置3台（うち1台は救急外来）、MRI装置2台、PET/CT装置1台、ガンマカメラ1台**を有しています。本年度には**MRI装置を1台更新**することになっており、RI部門でも**SPECT/CT**が導入される予定です。

これらの最新機器を、救急、肝・消化器、呼吸器、循環器疾患、周産期医療などの様々な分野で各診療科と密に連絡をとりあって運用することで、当院に期待されている高度総合医療施設・各種疾患拠点病院・ドクターヘリ基地病院としての責務に貢献しております。離島医療圏、病診連携関連施設など院外からの直接の読影依頼にも、随時対応しております。

IVR部門（血管内治療部門）<インターベンショナルラジオロジー>

3名のIVR医で、IVR（画像下治療・血管内治療）を行っております。IVRとは透視画像やCT画像を用いながら、血管など体内に細いカテーテルを挿入して治療を行う方法です。外科手術を行わずに治療を行うことができ、患者さんにとっては低侵襲で、迅速に治療を行うことができるのが、大きな特徴です。



肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓療法（TACE）

ドクターヘリ基地病院である当院では、外傷性あるいは非外傷性出血の患者さんの搬送が多く、救命のために緊急カテーテル動脈塞栓術による止血が必要な症例も少なくありません。そのため、年中24時間体制で急患受け入れを行っています。

また、当院は肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓療法（TACE）の件数が九州で最も多い病院の一つです。このほか、心臓血管外科と連携して大動脈瘤に対するステントグラフト治療、産婦人科と連携して子宮筋腫に対する動脈塞栓術などの治療も行っております。

放射線治療部門

がん治療には、大きく分けて「手術」「放射線治療」「化学療法」の三つの治療法があります。近年、著しく発展している領域がこの放射線治療です。放射線治療には下記のような特徴があります。

●治癒率が向上し、体の形や機能も保てる
●高齢者への負担が少ない
●放射線治療で用いる装置や技術が進歩

患者さんの多くが放射線治療は怖いもので、被爆と似たような副作用が起きるのではないかと考えていますが、決してそうではありません。むしろ、放射線治療だけをおこなう場合は、もっとも負担が少ない治療であるといえます。

放射線治療で用いる装置の発展は目覚ましく、当院でも最先端の放射線治療装置を導入しており、この大村でも先端医療施設と同様の放射線治療を受けることができます。

放射線治療部門のスタッフですが、放射線治療専門医だけではなく、専門資格を持っている放射線技師や看護師とともに日常診療を行っています。



放射線治療部門スタッフ

明日を担う

Vol.16

当院の“明日を担う”スタッフに、
work、life、そしてvisionを語ってもらいましょう。



形成外科医師

野口（のぐち） 美帆（みほ）

profile

出身地：福岡県
職種：形成外科医師
好きな曲：フジファブリック　若者のすべて

Q：医師を目指したきっかけは？

A：元々困っている人を助ける仕事をしたいと思っていたところ、高校時代の生物の先生の授業がすごく面白くて、特に人体の仕組みがいかにすぐれていて精密なのかに興味を引き付けられ、医師を目指すようになりました。

Q：形成外科を選択した理由は？

A：内科で診断を突きつめるより、手術で手を動かすのが楽しいと思ったことと、自分が行った治療の結果がはっきりとでることにきびしくはありますが、やりがいを感じたからです。形成外科は細々した作業が多いのですが、元々裁縫とか編み物も好きだったので、合っていたのかなと思います。

Q：研修医時代からの、当院でのキャリアパスについて教えてください。

A：小児の先天奇形から外傷、熱傷等幅広い疾患を経験できただけでなく、臨床研究を行う土壌があり、業績を多く積むことができています。また、上司の計らいで、院内で短期間救急科や病理診断科を回らせてもらったり、北海道の病院での研修機会を頂いたりと、たくさんの学びの場をいただきました。

Q：形成外科の上司である藤岡正樹部長から影響をうけた言葉はありますか。

A：“手術は始まる前に、その結果が決まっている”という言葉です。検査結果や画像、診察所見で何をすべきか、長期予後がどうなるかは決まっているから、いきあたりばったりの手術ではだめだということでした。改めて、ものすごく勉強しなければいけないなと思いました。

Q：ワークライフバランスについて気をつけているところは？

A：研修医時代に、無理をすると体調を崩しやすいことを自覚したので、しっかり食べて休む時は休むように、メリハリをきちんとするよう心がけています。

Q：仕事で大切にしていることは？

A：基本的なことですが、患者さんにきちんとわかりやすく説明することです。治療する中で、自分が思ったよりも患者さんに治療方針やゴールがうまく伝わっていなかったと感じることがありました。患者さんが内容を理解して、納得して治療に向かえるためにも、インフォームドコンセントがとても大事だなと痛感しています。

Q：今後の予定を教えてください。

A：大学院への進学を検討しています。“血管腫・血管奇形”の分野に興味をもっているのですが、治療に未解決な部分が多く、新しい分野の勉強、研究をしたいと考えています。特にこのような疾患で行き場がなく困っている人を手助けできるよう努力していきたいです。手術の技術はもちろんのこと、総合的な臨床能力もあげていきたいです。

Q：最後にひとことお願いします。

A：いつでも誰からでも声をかけやすい人間を目指しておりますので、お気軽に何でも、傷のトラブル等ご相談ございましたらお声かけください＾＾

聞き手：難治性疾患研究部長　小森 敦正

TOPICS

腎移植の歴史をふりかえり　～厚生労働大臣感謝状を受賞して～

臨床検査科（もと泌尿器科）　松屋 福蔵



日頃より、臓器移植、特に腎移植に関して、皆様にはご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

2021年10月24日、長崎ブリックホールにて第22回臓器移植推進国民大会が催されました。本会は臓器移植の普及・啓発を目的に全国各地で持ち回りの形で年1回開催されています。一度も開催されていない県が多い中、長崎で開催されるのは今回で2度目です。長崎県が早くから、行政の立場からも臓器移植に積極的に取り組んできたことが評価されたものと思われます。大会では毎回、臓器移植対策に貢献してきた団体や個人に功労者に対する感謝状が贈られます。今回、長崎からは長崎大学、原田孝司先生（長崎腎病院　長崎大学第二内科腎班時代から腎臓内科医として腎移植に貢献）、そして、小生が授与の栄誉に預からせていただきました。また、前年度に脳死下臓器提供が実施された施設に対する感謝状が佐世保市総合医療センター、長崎大学病院の2施設に贈呈され、長崎県において臓器提供が積極的に行われていることを実感しました。

腎臓は2つあり、1つでも日常生活にさほど支障がないこと（1つの腎臓を提供する生体腎移植が可能）、心臓や肝臓などに比べ虚血（酸欠）に強いこと（一定の条件下では心停止後の腎提供も可能）など移植医療を応用しやすい臓器です。しかし、何より人工腎臓（透析療法）の発達が早かったこと（移植した腎臓がダメになっても生存は可能）で他の臓器移植に先行し、腎移植は普及してきました。かつては「不治の病」とされた腎不全の治療も今や日常の医療に近い形にまで進歩しました。しかし、移植医療は臓器を提供してくださる提供者（ドナー）がいてはじめて成り立つ医療です。

臓器不全克服のため人類が闘ってきた歴史には想像を絶するものがあります。将来、「再生医療」が「臓器移植」にとって代わる日がくることも期待されています。しかし、実現までにはまだまだ時間を要します。

今後とも移植医療へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。最後になりますが、貴重な臓器を提供してくださいましたドナーの方のご冥福をお祈りするとともに悲嘆の中、臓器提供に同意いただきましたご家族、提供の意思をつないでくれた医療スタッフ、移植コーディネーターの方々、関係されたすべての皆様に感謝申し上げます。





第7回日本NP学会学術集会の運営・会長を経験して感じたこと

第7回日本NP学会学術集会 会長　本田 和也（脳神経外科診療看護師〈JNP〉）

はじめに

「全国規模の学術集会会長として何ができ、何が伝えられるのだろう」。会長の役を指名いただいた2018年11月頃から、ずっとそのことを考えていました。

考えついた答えは「**行動力とチーム力、そして創造力（ニューノーマルな発想）を活かしてこのパンデミックイヤーの学術集会を新たな形で乗り越えること**」。伝えられることとして、臨床実践で体験している「**Collaboration: 協働/連携の必要性**」と、診療看護師(NP)を社会に浸透させたい、患者さんや医療スタッフ、そして地域に役立つ看護職/存在として、純粋に理解いただきたいという「**情熱/思い**」でした。

そこで、本会では「**Collaboration. - 診療看護師(NP) の真価を問い、新たな価値を創造する -**」とテーマを掲げ、2021年11月19日から21日までの3日間、11月にオープンしたばかりの「出島メッセ長崎」よりライブ配信、さらにはオンデマンド・アーカイブ配信などを十分に取り入れた、新しい開催方法にて会を運営・開催しました。おかげさまで、予想を大きく上回る1022名のご参加、さらにはご後援団体(9団体様)、ご協賛・寄付（47企業、病院等）のご支援をいただきながら、139演題（20セッション）にて闊達な議論を展開することができました。





With/Afterコロナにおける学術集会のあり方

本会では、診療看護師(NP)・本会の魅力的な価値(Value)と使命（Mission)、目標（Vision）と会長としての思いを軸に、診療看護師(NP)ならびに本会の社会的評価（市場価値）がどの程度あるのかを調査するために、可能な限り多くの（400社超）企業や団体様と面談、交渉（いわゆる営業活動）を行い、さらに開催準備中～開催期間中にSNS (Social network service)やラジオ、YouTubeを活用した動画配信、等による積極的な広報活動を行いました。

その活動結果を、事前参加登録者の職種、地域等の内訳、HPへのアクセス数等から分析することによって、広報効果、市場評価を行い、より良い学術集会開催戦略の検討から、4つの指標（独自の開催方法決定指標）をイメージし、最終的な開催方法を決定しました。

7th JSNP 2021 NAGASAKI

	感染リスク（感染対策の必要性）	費用	運営スタッフの負担	参加者の満足度（推測）
完全現地開催	非常に高い	高い	高い	低い
完全Web開催	非常に低い	非常に低い	非常に低い	非常に低い
現地主体のハイブリット開催（一部Web併用）	高い	非常に高い	非常に高い	非常に高い
Web主体のハイブリット開催（一部現地発表併用）本会採用	低い	低い	低い	高い

・学術集会運営事務局（仲介業者）への委託をしない場合（独自運営の場合）

1000名程度の参加者であれば、学会運営業者への委託はせずに少人数で独自運営できることを証明することができ、さらには、YouTube・Zoom等を活用したWeb主体のハイブリット開催という、新しい学術集会開催方法を確立することができたと思います。あくまでも独自の運営スタイル、開催方法、決定指標ですが、このような情報をさらに分析し、医療系学会の発展など、次につなげるための報告書としてまとめているところです。今後学会公式HP（https://www.gakkai-web.jp/jsnp2021/）や公式SNS、書籍等でアウトプットしていく予定です。関心のある方は、ご覧くださいませ。

最後に

今後も、様々な視点で長崎県、そして長崎医療センターの医療/看護に貢献できる様に精進して参りたいと思います。ご協力頂きましたすべての皆様に心より御礼申し上げます。



TOPICS

第118回日本消化器病学会／第112回日本消化器内視鏡学会合同地方会を終えて

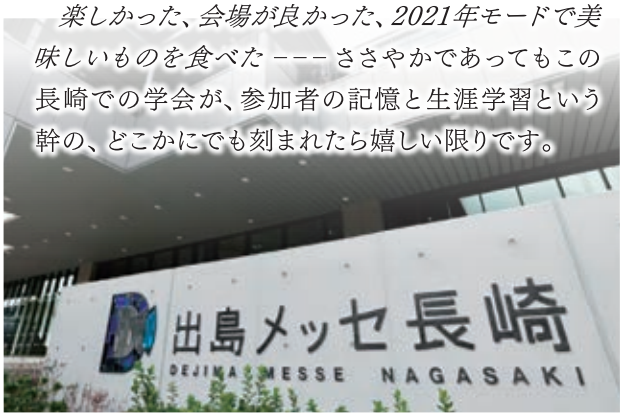
難治性疾患研究部長　小森 敦正

初めての学会発表を覚えているでしょうか？私の場合は卒後3年目に那覇市で開催された日本消化器病学会/消化器内視鏡学会九州支部合同例会でした。内科研修医2年を終え、“国内留学”先として国立がんセンター研究所がん予防研究部に赴任したばかりでしたが、研究部のメンバーの前で発表予行をする条件で休暇を戴き、東京から那覇に向かったものでした。2年目に在籍した九州厚生年金病院(現JCHO九州病院)の後輩医、指導医と1ヶ月ぶりでしたが再会し、会場とビーチを(タクシーで)往復しながらの、それは楽しい思い出です。満員の会場で質問をした自分を、後ろからながめたようなイメージがどこかに残っています。発表(タイトル：肝障害を呈した組織球性壊死性リンパ節炎の一例)のことは記憶にありませんが。

それから早や30年が過ぎ、いろいろな学会での発表と討論を繰り返しながら、時に学会の準備にも関わることを経て、今回日本消化器病学会/消化器内視鏡学会九州支部合同例会を、2021年12月3−4日、オープン直後の長崎市出島メッセでハイブリッド(現地+web)開催することができました。

100年に一度のパンデミックは未だ収束には至っていませんが、“風が止んだ”時の利に、長崎における学会の顔になるであろう、“Brand new, clean, and spacy”な会場を利用できた地の利、そして準備と当日運営に協力いただいた沢山のスタッフからいただいた人の利が重なりました。その結果、若き同僚には初めてとなる対面発表の機会を、懐かしい仲間には日々の発見と振返り、研究の進捗状況を共有し議論する時間を、どちらも約2年前までは当たり前であった場を、工夫も加えながら提供できましたことを、主催者として誇りに感じています。

楽しかった、会場が良かった、2021年モードで美味しいものを食べた −−− ささやかであってもこの長崎での学会が、参加者の記憶と生涯学習という幹の、どこかにでも刻まれたら嬉しい限りです。



TOPICS

日本臨床外科学会「研修医award」を受賞しました。

初期研修医　志田 泰一朗

2021年11月18日〜20日にかけて行われた第83回日本臨床外科学会総会にて「交通外傷3ヶ月後に遅発性脾破裂を生じた1例」で発表し、研修医award賞を頂くことができました。

遅発性脾破裂は、鈍的脾損傷にて1%前後に生じるとの報告があり、受傷後3週間以内の発症がほとんどです。私が経験し発表したものは、交通事故3か月後に遅発性脾破裂を認めた非常に珍しい症例でした。

ご指導いただいた外科の黒木先生をはじめ多くの先生方に感謝申し上げます。今後も積極的に学会発表を行っていきたいと思います。



TOPICS

第75回国立病院総合医学会に参加して

病理診断科長　三浦 史郎

「病理解剖の意義を問い直す：現状と展望」というシンポジウムセッションで、今回、「当院における初期研修医制度，専門医研修制度の中で行っている取り組み」というテーマで発表しました。



本邦での病理解剖数は持続的に低下しており、病理解剖数減少による初期研修医や病理専門医教育への影響は深刻なものになっています。2020 年 1月から蔓延した新型コロナウイルス感染症により、剖検数の著減とともにこの傾向はさらに拍車がかかっているように思われます。医師臨床研修制度、専門医研修制度における病理解剖と院内 CPC（clinical-pathological conference：臨床病理検討会）は重要な教育的意義を持っており、さらに病院の医療の質の検証の場となっています。

本発表では、本院でのCPCにおいて、研修医・主治医・病理医との連携、準備から開催方法、発表方法、レポート作成までの状況、工夫を紹介し、さらに病理専門医研修教育における当院の取り組みも紹介しました。演者発表後のWebによる総合討論では、本院のCPCの参加者を増やす工夫やディスカッション形式の参加型CPCの開催形式を高く評価して頂き、協力してくれる臨床医との連携が非常に大切であるという認識で一致しました。

TOPICS

令和3年度　緩和ケア研修会

緩和ケア専従　がん看護専門看護師　寺尾 敦

12月4日、令和3年度緩和ケア研修会が長崎医療センターにて開催されました。昨年同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対象者を院内職員に限定し参加人数も制限した中での開催となり、当日は16名（医師のみ）での研修となりました。



様々な制限もある中で、多職種でのグループワークができなかったことが残念ではありましたが、それを感じさせない多角的な視点からの白熱したディスカッションが繰り広げられていました。患者さんやご家族がその人らしく過ごすことができるための支援を一人一人が考え、意見を交換しあうことで、支援の幅が広がっていく様子がとても印象的でした。次年度は、様々な制限もなく、地域の医療者の皆様にもご参加いただき、有意義な研修会となることを願っております。

2名の院外講師（長崎大学病院石井浩二先生、阿保外科医院阿保貴章先生）を含めた運営スタッフの皆様、ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

TOPICS

2021年度 学術奨励賞　入賞者一覧

2021年度の学術学術奨励賞は以下の３名となりました。おめでとうございます！

筆頭者	論文タイトル
山之内　孝彰 （現：長崎県島原病院外科）	**Yamanouchi K**, Maeda S, Takei D, Koga Y, Yamashita M, Hamada T, Hirayama T, Yoneda A, Tokunaga T, Takeshita H, Kuroki T. Pretreatment Absolute Lymphocyte Count and Neutrophil-to-lymphocyte Ratio Are Prognostic Factors for Stage III Breast Cancer. Anticancer research. 2021 Jul; 41(7): 3625-3634.
本田　涼子 （小児科医師）	**Honda R**, Baba H, Adachi K, Koshimoto R, Ono T, Toda K, Tanaka S, Baba S, Yamasaki K, Yatsuhashi H. Developmental outcome after corpus callosotomy for infants and young children with drug-resistant epilepsy. Epilepsy and Behavior. 2021 Apr;117:107799.
副島　航介 （脳神経外科研修医）	**副島航介**, 日宇 健, 塩崎絵理, 小川由夏, 伊藤健大, 本田和也, 諸藤陽一, 川原一郎, 小野智憲, 原口 渉, 堤 圭介. 側副血行路起始部(A1)と前交通動脈に未破裂脳動脈瘤を伴う無症候性aplastic or twig-like middle cerebral artery—動脈硬化性頭蓋内血管多発狭窄を合併した1例. BRAIN and NERVE. 2021.04; 73(4): 379-388

一般社団法人　日本肝臓学会主催　肝がん撲滅運動

市民公開講座のお知らせ

市民の皆様、肝疾患患者さんを対象とした市民公開講座をWebにて開催いたします。視聴は無料です。ぜひご覧ください。

司会　長崎医療センター
難治性疾患研究部長　小森敦正

講演1　**最新の肝がんの治療**
長崎医療センター 肝臓内科医長　本吉 康英

講演2　**お酒の上手な飲み方**
肝がん撲滅運動長崎県責任者
長崎医療センター 副院長　八橋 弘

視聴方法と注意事項

●視聴はパソコン・スマートフォン・タブレット端末でも可能です。
●視聴は無料ですが、通信料がかかります。通信料は視聴いただく方のご負担となりますので、予めご了承ください。

視聴URL　https://nagasaki-kan.com/shimin2021/



経営企画室だより Vol.3



長崎医療センターでは、令和３年10月１日から10月31日まで入院病棟、10月14日、10月15日には外来において、患者満足度調査を実施しました。患者満足度調査とは国立病院機構の全病院で実施していますが、患者さんから長崎医療センターの評価・満足度について調査を通じて把握をすることで、当院の問題点の改善や、患者様の満足度を向上させることを目的としています。

２年ぶりの実施となりましたが、コロナ禍の現状を踏まえ感染対策に考慮しながらの実施となりました。特に外来での調査においては、例年各処へ記載台の設置を行い、調査票を記入していただいておりましたが、今年は密を避けるため記載台の設置は行わずに、下敷きを調査票と共に患者さんへ配布し調査へのご協力をお願いしました。また、アンケートを配布する職員についても、アルコールでの手指消毒を徹底し、調査票を配布しました。

今年は、多くの患者さんに調査票を記入していただき、回収率及び回収枚数が大きく増加いたしました（表１）。回収枚数が増加したことで、長崎医療センターに対して多くの患者様からのご意見を頂くことができました。

いただいた意見の中には厳しいものから、激励してくださるものもあり、いただいた意見全てを病院幹部を含め病院各部署へとフィードバックさせていただき、今後の病院運営並びに患者サービス向上への取組みへつなげていきたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中調査にご協力いただきありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

	令和元年度	令和３年度
配布枚数	８８０枚	６７５枚
回収枚数	３２２枚	６６０枚
回収率	３６.５％	９７.７％

（表１）外来実施分（実施日10月14日、10月15日）

長与専斎展のご案内

下水道共用開始40周年記念に伴う“長与専斎展”がミライon図書館にて開催されます。当院保管の資料も展示される予定です。

『長与専斎と大村の藩医』

期　間　令和4年1月15日（土）～令和4年2月20日（日）　10時～18時
※休館日：毎週月曜、2月1日（火）

会　場　大村市歴史資料館　企画展示室（ミライon1階）



看護部だより Vol.37

第9回看護管理者育成研修を開催！

教育担当係長　井口 麻里

令和3年11月8日（月）～11月12日（金）の5日間、長崎県内における次世代の看護管理者を対象に、第9回看護管理者育成研修を開催いたしました。感染対策として、検温や体調チェック、手指消毒や換気などを行い、開催いたしました。

県内の9施設14名の方に参加いただきました。研修は「**看護管理概論**」「**人を育てるためのマネジメント**」「**グループマネジメント**」「**労務管理**」「**安全管理・クオリティマネジメント**」の5つのテーマに沿って、講義とグループワークを行いました。看護管理に関する基本的な知識を学び、現場で人を育てることや、管理者に求められるコミュニケーション、問題解決思考など、自己の役割や課題を考える研修となりました。また、今年度は感染管理についても取り上げ、コロナ患者さんを受け入れる時に困ったことや、取り組んだことの共有も行いました。研修の中では、活発な発言がなされ、有意義な意見交換ができていました。

研修最終日には、「自分が変わらないといけない」「スタッフに自分の思いを伝えていきたい」「あるべき姿を考えていきたい」など、頼もしい発言も多く聞かれました。

研修を企画・実施した私たち自身も、日頃の看護管理を振り返ることができ、刺激を頂くことができました。

5日間で学んだ事を、それぞれの施設に戻られてから実践に役立てていただけることを期待しております。この研修が、長崎県内の各施設の看護の質向上の一助となりましたら幸いです。


≪看護師長からの講義≫


≪グループワーク≫


≪グループワークの意見を発表≫


看護部認定マスコットキャラクター

SENSAIで2021年を振り返る

当院では、年11回広報誌を作成しております。皆様に当院を知っていただきながら、より良い情報提供ができればと考えております。

本年度もお世話になりました。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。























理　念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 絶対に断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する